

出口治明さんという方がいらっしゃる。日本生命を経てライフネット生命を起業し上場した。国際公募で選ばれ、2018年より立命館アジア太平洋大学の学長を務めている。著書に「哲学と宗教全史」「全世界史（上・下）」などがある。歴史への造詣が深い。

先月、出口さんの「世界史・10の『都市』の物語」という本を読んだ。それまでも出口さんの本は何冊か読んでいたが、歴史に関するものは初めてだった。おもしろくわかりやすかった。一気に読んでしまった。

出口さんがこんなことをおっしゃっている。

我らホモ・サピエンスは誕生してわずか20万年、対するウイルスは数十億年の歴史を持つ生物界の大先輩。英国の生物学者リチャード・ドーキンスがツイッターで語ったように、パンデミックは自然現象だから人間にはコントロールできない。でも、いつか必ず終わる。終わった後に何が起るか。14世紀のペストはルネサンスを生み出した。

さて、今回の新型コロナウイルス感染症では、企業を中心にテレワーク、学校ではオンライン授業が進んでいる。9月入学の話も出ている。まさか自分が教員をしている間に9月入学の話が進むとは思わなかった。学校のICT関連の環境整備は予定よりも早く進むことになるであろう。在宅勤務や時差出勤も教員の働き方改革を後押ししたことと思う。一気に世の中のシステムが変わるきっかけとなりつつある。

今回の大型連休を通して、だいたい家で過ごすことにも慣れてきた。家でできることの選択肢の一つに本を読むことがある。高校生の皆さんも学習課題に取り組んだり、家で軽く運動したり、近所を散歩したりと工夫しながら過ごしていることだろう。加えて、このようなときは人と話すことが大切である。それは家族でもいいし、友達でもいい。

臨時休業中は、時間にゆとりがある。そこで、本を読んでいるだろうか。知識は力である。高校生の時期に吸収した知識はやがて自分の財産となり武器となる。問題はどんな本を読んだらいいかという点である。2冊紹介する。

『いいなづけ』河出文庫 著者 アレッサンドロ・マンゾーニ 訳者 平川祐弘

今と同じようなパンデミックの状況下でその当時の人々がどう対応したか、とても示唆に富む本である。17世紀の北イタリア・ミラノが舞台の歴史小説。今回、イタリアの高校の校長先生がこの小説の一節を紹介し、冷静な対応を呼びかけて話題となった。

『知ろうとすること。』新潮文庫 著者 早野龍五・糸井重里

東日本大震災後に、科学的なりテラシーを高め、あふれる情報の中から、どうやってフェイク情報を見破ったかを2人の賢人が語る。世界中にフェイクニュースが蔓延する今こそ読むべき非常に大切な本である。

このような状況だからこそ力を蓄えてほしい。学校の授業以外でも知力をつけることはできる。「知（知識）は力なり」イングランドの哲学者フランシス・ベーコンの言葉である。